

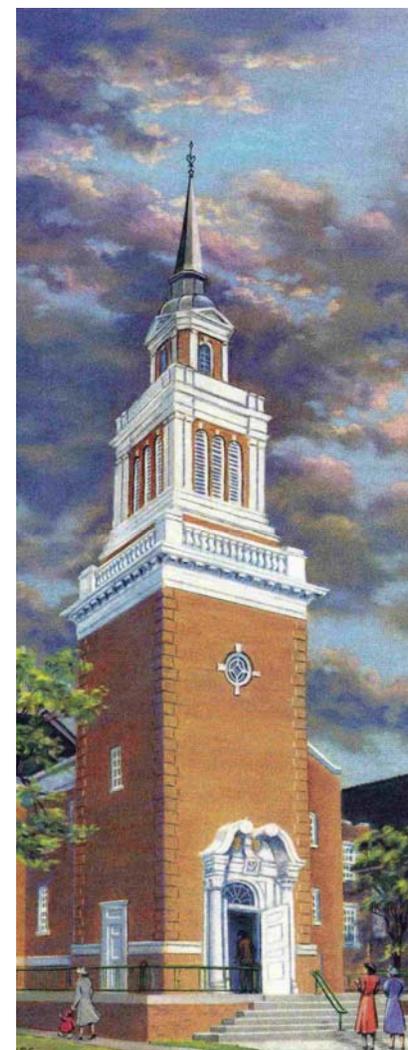
## 感謝録

荒井 久和子姉	飯田 和晴兄	不破 満雄兄
加納 幸子姉	小坂 るみ姉	三縄 博兄
三縄 都美子姉	坂田 淑姉	Scroggins 由紀牧師
下竹 博兄	下竹 寛子姉	下竹 祐三郎兄
下竹 由美子姉	武井 里花姉	

## 記事: 消息

- \* 主が次の方々を癒やし、痛みを和らげ、心に平安を与えてくださるようお祈りください。陳百合子姉、南部Ethel 姉、江崎Alice姉。
- \* 過ぎにし聖日(2月 10日)
- 一 由紀牧師の説教は、「いけにえに勝るもの」と題して、マタイによる福音書12章1-8節からでした。主イエスの弟子たちが安息日に畑の穂をつんで食べ始めた時、パリサイ人たちはそれを見て非難しました。しかし、主イエスは、弟子たちは律法に反したわけではないことを前提にしながらか、その点よりも、いけにえに勝る憐れみについて、旧約聖書を引用して言及されました。硬直した正しさ、清さよりも、神の愛と憐れみこそが、律法の真髄であり、ダビデが詩篇51篇で歌っているように、私たちが砕かれた心をもって御前に出るとき、主の憐れみと赦しを受けることができます。
- 一 聖書研究は、ローマ人への手紙 8章22-25節からでした。私達は、被造物と共に、心でうめきながら、体があがなわれる事を待ち望んでいます。目に見えなくても、来るべき主のご来臨、体のあがないの望みは、御霊を通して心に記されており、私たちは、喜びをもって永遠のいのちを心から待ち望むことができます。「信仰とは、望んでいる事がらを確認し、まだ見えない事実を確認することである」(ヘブル人への手紙11章1節)。
- \* 2月17日(日) 10:30 am 合同礼拝(癒やしの礼拝) 主会堂  
12:00 pm 合同フェロシッブ Howel Hall
- \* 2月13日(水)から40日間のレントにはいり、今日2月17日(日)は、レントの第一日曜日にあたります。  
当教会では、「40 Days of Kindness Journal」が準備されました。愛に基づいた行いを強調したもので、毎日の祈りと、良い行いのための助けとしてお読みください。

発行: 2013年 2月 12日 ノースショア・バプテスト教会日本語部  
スクロギンズ 由紀牧師 (Rev. Yuki Scroggins)  
Tel: 773-728-4200 Ext.26 Email: yscroggins@northshorebaptist.org



# 週報

第3421号  
2013年 2月 17日

ノースショア バプテスト教会 日本語部  
North Shore Baptist Church Japanese Congregation

5244 North Lakewood Ave. Chicago, IL 60640  
Tel: 773-728-4200 Web: www.northshorebaptist.org

礼拝のプログラムは、当日主会堂入り口で手渡されます。

### ”癒やしの意味”

癒やしというとき、”病気が治る”とか、”痛みがとれる”とか、私たちは、とかく肉体に現れたいのちに限定して考えがちで、癒やしが、いのち全体にかかわるものである事を、忘れてるように思います。パウロが云っているように、人間を含め、すべての被造物は呻きをもって、体のあがなわれることを願い、私たちは、被造物が滅びの縄目から解放されて、栄光の自由に入る事を待ち望んでいます(ロマ書8章21-23節)。イエスが、床の上に寝かせたまま連れて来られた中風の者に最初に云われた事は”あなたの罪は赦されたのだ”という言葉でした(マタイ伝9章2節)。罪というものが、いかに人間の命をその根源から損なっているかをイエスは御存知でした。イエスは彼の中風が癒やされて、起上がり歩けるようになる事だけでなく、彼が罪から解放されて、彼のいのち全体が全きものとなることを願っておられたのではないのでしょうか。神によって造られたままの完全な姿に戻ることに、癒しの本当の意味はそこにあるのだと思います。”神が造ったすべての物を見られたところ、それは、甚だ良かった”(創世記1章31節)。イエスが生まれつきの盲人を癒やされたとき、”ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである。”と言われました(ヨハネ伝 9章3節)。私たちが癒やされる時、それは神が私達を通して、みわざを現わそうとしておられるのです。私達の病いや、痛みを癒やして下さるだけでなく、神はその御心を地上になされようとしています。主の御栄光があらわれますように。

### 祈禱・聖書学習会

時間の都合で中止いたします。

合同フェローシップ 礼拝後 Howll Hall

### 今週の聖句

イザヤ書 58章 1-12節 詩篇 51篇 1-17節  
 コリント人への第二の手紙 5章 20b - 6章 10節  
 マタイによる福音書 6章 1-6, 16-21節

“もし私たちが見ないことを望むなら、わたしたちは忍耐してそれを待ち望むのである”(ローマ人への手紙8章25節)

私がまだ学生だった頃、自分が通っていた教会の人たちが年配の人たちから若者まで、とても素敵に見えて仕方ありませんでした。顔立ちがどうこういうわけではなく、光り輝いているように見えました。それがクリスチャンになりたいと思ったきっかけです。なぜなのか、と今になって考えたときに、彼らは国をなくしたり子供のころ移民して来たり、とても苦勞して大変な過去があるにもかかわらず、生き生きとして希望に満ちていたからだと気が付きました。それは単に明るいとかポジティブだという以上にもっと深みのある印象でした。人生の苦勞を正面から見据えた人でないと出てこない味があったのです。彼らは信仰生活の中でよく Perseverance, という言葉を使っていますが、それは忍耐という日本語とは少し意味が違っていただいかもしれません。日本語で忍耐というと、いやなものを耐え忍ぶ、という意味がありますが、Perseverance はもっと明るい積極的なものです。なぜかというところには永遠の命への期待と信仰があるからです。来るべき主のご来臨に希望を持ち続けているからこそ、彼らは生き生きと輝いていたに違いありません。信仰が浅かった時代に、そういった人々に出会うことができたのは、私にとって大きな恵みでした。パウロは被造物とともに、主を信じる者たちも心の中で呻きながら、体の贖いを待ち望んでいるといいましたが、たとえそうであっても、自分の努力ではなく、ただ神の恵みによっていただいている永遠の命の希望がある限り、私たちの人生にはいつも喜びがあるのではないのでしょうか。どうか私たちも、喜びをもって主イエスキリストの来臨を待ち望むことができますようにお祈りします。(スクロギンズ由紀)